

平成 25 年農業後継者就農激励会

野田直樹さん



今金農業を支える担い手！

12月

13日

農業後継者就農激励会

八束東地区

野田直樹さん



輝かしい新年を迎えて

今金町農業協同組合 代表理事組合長

平成二十六年元旦

代表理事組合長

小田島 親守



新年明けましておめでとうございます。

平成二十六年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。組合員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げますとともに、日頃より組合員各位、ご家族の皆様をはじめ、関係機関各位のご指導、ご支援を賜っておりますことに対し、衷心より厚く御礼を申し上げます。本年もJA各事業へのご協力、ご利用をよろしくお願ひ申し上げます。

昨年度の情勢等を振り返りますと、日本の経済は海外経済の減速傾向のなかにあり、円高・長期に亘るテフレにより景気低迷が続く状況下において政権交代が行われ、新政権になつて1年が過ぎましたが依然として厳しい状況が続いた年がありました。

TPP交渉につきましては、3月の交渉参加表明以降も全国・全道の関係機関や諸団体と連携し交渉参加反対の各種行動を展開してきました。依然として国民に対する詳細な情報開示もないなかで行われており、交渉参加国間で目標としていた年内妥結は各国の関税問題などで合意に至らなかつたものの、年明け1月に再度協議が行われることになつており予断を許さない状況にあります。

さて、本町における昨年の農業では大雪による春先の融雪の遅れと5月までの低温・日照不足等で心配されましたが、6月より好天に恵まれ一時降雨・旱魃の影響もありましたが概ね良好な年となりました。酪農畜産においても肉牛等堅調に推移しており、販売事業総体では事業計画に沿つた内容となる見通しであります。

昨年暮れには農政の柱である米政策の見直し転換が行われました。それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設等がなされました。生産現場における取組状況を十分検証しながら生産者が意欲と将来展望を持つて経営展開が出来るよう要望するものであります。また、国営緊急農地再編事業が今年度より本着工となります。北地区においても早期に事業採択されるよう行政と一緒に継続要請して参ります。

本年は「第10次中期経営計画」の初年度となります。当JAとしまして、第10次中期経営計画及び26年度當農基本方針に基づき経営管理・業務体制・財務基盤の強化を図ることで競争力を持つ健全なJAとなることが組合員皆様の負託に応えることに繋がると信じ、役職員一体となり事業展開して参りますので、皆様もより一層JA事業への結集とご協力を願い致します。

結びに、本年も災害がなくご家族が健康で豊穣の出来秋を迎えることができますよう心から御祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

つつしんで
新春のお慶びを
申し上げます



▲馬鈴薯販売状況の説明を受けています



▲畑作部会道外視察参加者の皆さん



▲熱心に話に聞く学生たち



▲激励状を受け取る野田さん

今金町畑作部会・今金町種子馬鈴薯委員会が道外視察として関東方面に11月26～28日の日程で市場、ホクレン販売本部に訪問しました。

道南産馬鈴薯については、干ばつの影響により小玉傾向となつており、入荷量は少なめ、平年並でしたが、現在まで順調な販売が続いており、今後の需要期に向けて、堅調に推移すると思われます。

20年位前は小売店のシェアが多く、多少形状が悪くても対面販売により食味をアピールして販売し

て頂いておりましたが、現在は大手量販店のシェアが8～9割を占め陳列販売が主流となり、味は良くても見た目が悪いと売れず、品を切らすことができないでの、安定供給が求められます。今後の販売戦略として、今金男しやくの銘柄については一般消費者にまでは伝わっていないのが現状です。リーズナブルな価格で試食販売など消費宣伝活動をするなど、今一度、今金男しやくの魅力を消費者に周知させる必要があります。

「函館育ちライスター・ミナル今金工場」に12月16日、檜山北高等学校の生徒と関係者、計25名が見学に訪れました。当日は販売課・山口徹也さんが対応し、センターで受入している米についてや、どのように保管しているかを施設内を回り説明しました。「おいしくて釜が空になる」という意味を込めて、『即今釜空の今金米』のキャッチフレーズを掲げている」と話しました。このキャッチフレーズに負けないようにこれからもおいしい米を作り続けます！

12月13日、平成25年度農業後継者就農激励会が開催されました。平成25年度の農業後継者は、野田直樹さん（経営者・勝則さん）、長谷俊幸さん（経営者・正幸さん）の2名。これから今金町農業を支える担い手として、今後ますますの活躍が期待されます。

当日は野田直樹さん、JA役職員、JA青年部の役員が出席し、これから今金町を支える担い手に激励の言葉をかけ、懇親を深めました。

道外視察研修報告 畑作部会

玄米センター見学 檜山北高等学校

農業後継者激励会 今金農業を支える 担い手たち！

JA今金町青年部 道外視察研修報告



▲大田市場にて説明を受けています



▲青年部道外視察参加者の皆さん

青年部が道外視察で関東方面に11月28～30日の日程で訪問し、クボタのトラクター工場、大田市場、埼玉県北部土地改良区連合の3ヶ所を視察しました。

トラクター工場では普段使っている農機具の製造工程を見学し、農機具の安全な使用方法についてVTRを見ることで使用方法の遵守が農作業事故を減らす事が出来る事を再確認しました。

大田市場では馬鈴薯を中心に視察し、近年の今金男しやくの動向や消費者のニーズについて話を聞

き、実際に他産地と比較して今金産の選果レベルの高さと品質維持の大切さを学びました。

埼玉県北部土地改良区連合では小型の水力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーの分野について学びました。埼玉では民家にも個々でソーラーパネルが設けられており、太陽光から得た電力を電力会社に売ると約方法を実践していました。

今回は多くのことを学べ、有意義な道外視察となりました。

今金町民センターにて第52回農村女性文化祭が12月6日に開催されました。

午前中は今金町保健福祉課保健師の齋藤麻美さんを講師に招き、「認知症」について講演を頂いた後、部長の岸幸子さんより「平成25年度JA北海道女性協海外農業視察研修」の報告を頂きました。

午後からは恒例の演芸発表を披露し、歌に踊りと会場は大いに盛り上がり、笑顔あふれる文化祭となりました。



第52回農村女性文化祭 開催

Next GENERATION

新時代の担い手たち

第25回

光台地区 矢内 智史さん〔29歳〕
(やない さとし)

北海道立農業大学校卒（就農9年目）

《経営作物》種子馬鈴薯 乳牛50頭、育成牛38頭

《家族構成》矢内 義則（父） 良子（母） 文子（祖母）



今金町を担う若者達を紹介するコーナー。第25回
目は光台地区の矢内 智史さんをご紹介します。

矢内さんは農業大学校を卒業後に就農され、今年
で9年目となります。毎日の搾乳に加え、夏場の種
子馬鈴薯と忙しい日々を送っています。趣味は野球
観戦。中学生の頃に野球をやっていたので、野球自
体が好きで、テレビで見ることも多いそうです。今
回は矢内さんに色々なお話を伺いました！

『就農のきっかけは?』

小さいころから家族が農業を営む姿を見ており、自分もいつか農業に携わりたいと思っていました。高校・大学と農業について勉強し、しっかり知識を蓄えて就農することを決めました。

『農業をしていて感じることはありますか?』

現在は家族とやっているが、今後両親が出来なくなつたときに労働力が不足してしまうという状況に陥ることが今一番不安に感じていることです。

『今の生活はどうですか?』

生き物が相手なので、体調管理など365日常に様子を伺わなければならないので大変ですが、やりがいがあります。時間を見つけて愛車でドライブに出かけるのもいい気分転換になりますし、充実しています。

『今後はどうしていきたいですか?』

TPP問題はもちろんのこと、飼料の値上がり、資材の高騰など現状でも不安な事がたくさんあります。物事を慎重に考えて、とにかく現状維持でいきたいと考えています。一緒にやつてくれるパートナーが見つかれば、規模拡大したいと考えています。

『矢内さんより一言』

まだまだ未熟な私ですが、これからもよろしくお願ひします。なお、一緒にやつてくれるパートナーを募集しています。少しでも興味を持つてくれた方、是非ともお問い合わせ下さい(笑)

多忙の中取材にご協力していただきありがとうございました。酪農を取り巻く環境は厳しい現状となつてしまいますが、周りの仲間と協力し合い、若い力で乗り切つてほしいです。なお、矢内さんのパートナーを絶賛募集中です!ご応募お待ちしております!

檜山農業改良普及センター北部支所の ～営農技術情報 2014 1月号～

平成25年の作物生育状況と次年度に向けて

平成25年は、融雪が遅く、低温が続いたため、春作業が遅れました。5月下旬以降気温が平年を上回り、6月～7月は降水量も少なく、農作業や生育は順調に経過しました。8月～9月は集中豪雨や継続的降雨があり、病害虫の発生増加等、作物に影響が出ました。普及センターの作況調査の結果を振り返り、次年度に向けた対策を考えます。

収量は10a当たり、()内は平年値



水稻

収量要素	m ² 穗数	610 (516) 本	一穂粒数	56 (64) 粒
精玄米重	545 (527) kg		くず米重	49 (39) kg

生育概況

融雪遅れの影響などから、は種期は4月19日(-3)。は種後は低温が続き、出芽の遅れや不揃が目立った。出芽後は比較的順調な生であったが、苗は徒長ぎみとなった。移植機は5月28日(-1)で、5月下旬から高温に転じ、活着は良好、分けつも順調に増加し、幼穂形成期は6月28日(+7)となった。その後も順調に推移したが、7月下旬は日照が極めて少なく、出穂しても開花できない状況が続き、葉鞘褐変病が目立つ状況となった。7月末頃から天候回復とともに出穂の早・晩が一斉に開花する状況であった。8月は好天が続いたことから生育も回復し、稔実歩合は平年並となった。8月下旬の大霖で一部倒伏するほ場も見られたが、登熟温度は全般に高目に推移し、成熟期は9月16日(+3)となった。収穫期は9月26日(+3)であったが、雨で収穫に苦労した。

穂数が多かった反面、1穂粒数が少なく、m²総粒数はやや多となった。登熟歩合はやや高く、精玄米重はやや高くなかった。品質及び蛋白は平年並であった。

次年度に向けて

- ・融雪促進とほ場の乾燥化促進、等排水性改善に全力を！

- ・ほ場管理をおろそかにせず、基本技術の励行を！



秋播小麦

収量要素	m ² 穗数	579 (786) 本	一穂粒数	32 (30) 粒
子実重	628 (578) kg		一等比率	100 (61) %

生育概況

24年秋は、天候不順により前作物の収穫作業が遅れ、一部ほ場で秋まき小麦のは種作業も遅れた。春の融雪遅れにより、起生期は平年より5日遅れ、一部ほ場で雪腐病の発生が見られた。は種作業の遅れたほ場では、茎数不足となった。幼穂形成期で平年より5日遅れであったが、その後の高温により生育は回復傾向となり、止葉期で4日遅れ、出穂期で2日遅れ、成熟期で2日遅れとなった。

収穫は平年より3日遅れとなったが、子実重は平年比108.7%、赤かび病の発生も少なく、品質も良好であった。

次年度に向けて

- ・茎数確保のため、起生期からの適正な施肥を実施する

- ・「きたほなみ」では子実の充実を図るため、止葉期追肥を行う
- ・透排水性の良いほ場づくりに取り組む
- ・適正は種と雪腐病防除の実施に努力する



馬鈴しょ

収量要素

規格内収量 [露地 3,687 (3,036) kg 早出し 3,224 (3,182) kg]

ライマン価 [露地 14.0 (14.5) % 早出し 12.6 (14.1) %]

生育概況

[露地] 5月上旬の降雨で、植付はやや遅れた。植付後の低温で初期生育は劣ったが、その後の好天で回復し、開花期は平年並、茎葉黄変期で2日早まった。病害は少なかったが、9月上旬の降雨で、収穫開始がやや遅れた。いも数はやや多く、上いも収量は多かった。規格内率は平年を上回ったが、ライマン価は平年並。[早出し] 降雨で、植付が遅れ、萌芽期も平年より5日遅れた。その後は高温・乾燥傾向で推移したため病害の発生は少なかった。着蕾期で平年より3日遅れ、開花期は平年並、収穫期は2日遅れた。上いも1個重は平年比90.9%、上いも収量は95.2%と低くなった。

次年度に向けて

- ・有機物施用を計画的に行い、土壤の改善(物理性・化学性)を図る
- ・培土は適正水分で行い、十分な土量と安定した形状を維持する
- ・高温時は、収穫物をほ場に放置せず、貯蔵前に十分キュアリングする



豆類

収量要素

着莢数 {さや数} [大豆 349 (397) 個 / m² 小豆 366 (487) 個 / m²]

子実重 [大豆 237 (227) kg 小豆 177 (244) kg]

生育概況

[大豆] 降雨により、は種が遅れ出芽期は平年より2日遅れた。は種後の干ばつ傾向で、一部ほ場で出芽が揃わず、初期生育は劣った。その後の高温と適度な降雨で生育は回復し、開花期は平年より2日早く、成熟期は4日早まった。着莢数は少なかったが、1莢内粒数は平年比130.1%、子実重は104.7%となった。成熟期以降の降雨で、裂皮、しわ粒が発生し製品歩留が低下した。

[小豆] 降雨により、は種がやや遅れ、は種後の干ばつで、一部のほ場で出芽不揃いが見られた。出芽後は高温で推移し、開花期は平年より3日早まり、成熟期も3日早かった。生育後半は雨が多く、一部ほ場で菌核病・灰色かび病が見られた。着莢数は平年より少なく、高温で登熟したため粒が小さく、雨害もあり製品歩留が低下した。

次年度に向けて

- ・干ばつや湿害回避のため、心土破碎等を行い、根域の拡大を図る
- ・豆類の連作や交互作を避け、適正な輪作体系を守る



てんさい

収量要素

(株) 北糖調べ

根重 6,742 (7,198) kg 茎葉重 3,385 (4,644) kg 根中糖分 17.1 (17.0) %

生育概況

は種は、平年よりやや遅かった。移植はやや早めに始まり、平年並に終了。移植後の活着は良好で、初期生育も順調であった。

8月以降は多雨傾向であったが、病害の発生も少なく、根部の肥大も良好であった。11月上旬の降雨、降雪で、収穫は平年より3日遅れて終了。収量は平年を上回ったが、根中糖分は平年並。

次年度に向けて

- ・pHの改善や透排水性の良いほ場づくりを行う
- ・完熟堆肥により地力向上を図る
- ・生育後半の雑草の対策(草取り)を実施する

お客様の石油ホームタンク、大丈夫ですか？

配管劣化による漏えい

配管の劣化は、油漏れによる汚染事故を招く大きな引き金となります。

腐食による倒壊

長年の風雪でタンクが腐食し、倒壊寸前の状態になってしまします。

腐食による倒壊

長年の風雪でタンクが腐食し、倒壊寸前の状態になつていませんか？

▼▼▼▼▼▼▼ いたん油が漏れると ▼▼▼▼▼▼▼

土壤汚染



水質汚染

等の各種被害が発生する恐れがあります。



事故が起つた場合

全て所有者の責任

となり、その処理のため

多額の費用を自己負担

しなければなりません。場合によっては

法律で罰せられる

こともあります。



自主点検をして下さい。

[タンク]

- ①外面（特に底部）は著しく腐食していませんか？
- ②脚部・タンクとの接触面は著しく腐食していませんか？
- ③タンクに油が滲んでいませんか？

(穴が開く危険度大)
(倒壊の危険性大)
(油漏れの可能性大)

[設置場所]

- ④脚部は東石にボルトできちんと固定されていますか？
- ⑤タンクが傾いて設置されていませんか？

(倒壊の危険性大)
(倒壊の危険性大)

[配管・ストレーナー等]

- ⑥ストレーナー、配管の接合部がゆるみ、油が滲んでいませんか？
- ⑦配管を負荷の掛かる状態にしていませんか？埋設配管上に駐車、雪中に埋もれる等

(倒壊の危険性大)
(倒壊の危険性大)

[その他]

- ⑧急に給油量が増えていませんか？
- ⑨球形タンクですか？設置後20年以上経っていますか？

(油漏れの可能性大)

(老朽化のため様々な危険性があります)

- ⑩定期的（2～3年に1度）にタンク洗浄を行っていますか？（タンクの状態がわかります）

ひとつでも心当たりがある場合は下記までご相談下さい。

◇万が一、流出してしまったら

灯油・経由・重油等を河川や側溝に流出させてしまつたら、速やかに消防車に連絡しましょう。

問合せ先TEL 0137-82-0241 JA今金町 ホクレンSSまで

J A 広報いまかね459号 平成26年1月1日発行

◇発行 今金町農業協同組合 ◇住所 〒049-4397 北海道瀬棚郡今金町字今金141番地

◇電話 0137-82-0212(直通) FAX 0137-82-0854 ◇編集 営農部 農業経営課 ◇印刷 今金はやし印刷社